

絶望の中を生きるには「愛する人」と「働く場」が大事

JIM-NET 代表理事 鎌田 實

~~~~~

20 世紀の精神医学の巨人と言われているフロイトが「絶望の中にいるとき、その絶望を乗り越えて生きるのに大切なことが 2 つある。この 2 つがあれば、多くの人は生き抜くことができる」と言った。この 2 つとは何でしょう。「愛する人がいること」と「働く場があること」。フロイトは、このどちらか 1 つでもあると、多くの人は生き抜くと言う。2 つあれば更に、心強いということだ。

東日本大震災のとき、お風呂のボランティアをやった。そのとき小学校の体育館で避難している避難者に仕事をしてもらった。その人は、いち早く精神的に立ち直った。規則正しく働く場があることは、人間にとってとても大事なことだ。

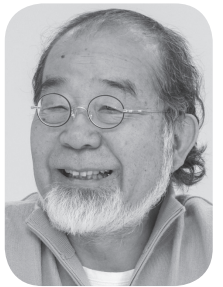
シリアから脱出してきた人々が暮らす、イラクの難民キャンプでも、雇用を広げる努力をしている。今年の夏、50℃の炎天下の中、日本の「かき水器」を持ちこみ、白血病のローリンちゃんのお父さんを氷屋さんとして雇った。家じゅうが明るくなった。JIM-NET は新たに「Kamata 農園」「Kamata 屋台」の雇用を創出しようと、準備に入った。

難民キャンプで健康づくり運動を始め、「野菜をたくさん食べよう」と、5 つの目標の 1 つとして提案してきた。その提案に沿って、今まで農業をしてきた人たちに難民キャンプで野菜作りに励んでもらい、その野菜を、僕の健康づくり講演会に来てくれた人にプレゼントすることにした。また、アラブの社会では、夜にな

ると「蕪のスープ」の屋台が出る。これを難民キャンプで提供しようと考えている。目標は、10 台の屋台を作り、それぞれの屋台で働いてもらい、もちろん難民の人には無料で蕪のスープを飲んでもらう。飲んだ人たちは、元気が出る。屋台で働く人たちは、わずかながら給料も出る。さらに希望が湧いてくる。キャンプの中で、良い循環が起きるのだ。難民キャンプでは、絶望的な空気が流れている。その難民キャンプで、少しでも希望に転換するために、「愛と仕事」を広げていこうと思っている。

JIM-NET は今、難民の多くなっているイラクやヨルダンで、大変厳しい状況の中で、少しでも辛い状況にいる子どもたちを助ける活動をしようと思っています。後方支援のために自衛隊を送り出すのではなく、日本は人道支援や医療支援に特化した活動をすべきだと思っています。ユニークであったかな、日本らしい活動を今後とも続けていきます。

チョコ募金が始まります。たくさんの人に広めてください。口コミやインターネットで、どんどん伝えてください。たくさんの人に応援していただかなければ、16 万個のチョコが生きてきません。ここから、いいリサイクルが産まれるのです。ぜひ温かな応援を、お願いいたします。



**2016 年度チョコ募金は、2015 年 12 月 1 日(火) AM9:00 より電話受付開始 03-3209-0051**

**FAX: 03-3209-0052 / 郵送は 11 月 2 日 (月) ホームページは 11 月 16 日 (月) から先行受付開始!**



### NEWS

絶望の中を生きるには「愛する人」と「働く場」が大事……鎌田 實 (JIM-NET 代表理事) P1

チョコ募金 2016 「物語のあるチョコレート」……佐藤真紀 (JIM-NET 事務局長) P2

福島の実現と子どもたちの支援を忘れてはいけない……小玉直也 (NPO 法人アースウォーカーズ 代表) P3

イラク・アルビルからの報告……榎本彰子 (JIM-NET アルビル事務所駐在) P4

シリア、イラクはクラスター爆弾の被害国ー JIM-NET はクラスター爆弾禁止を訴えますー…内海旬子 (JIM-NET 海外事業担当) P4

# チョコ募金 2016「物語のあるチョコレート」

佐藤真紀 (JIM-NET 事務局長)

## ♥今年のテーマは？

昨年に引き続き、「いのちの花」です。

2007年に、「ほっとけない世界の貧困キャンペーン」を行ったとき、JIM-NETでTシャツを作ったのですが、イギリス人のアレックス・リッチというデザイナーが担当でした。僕は、イラクの小児がんの子どもが描いた絵を使ってほしいと思って彼に見せたら、子どもの花の絵の上に薄い布をかぶせて、透けて見えるようにして、薄い布には、「I am not ephemeral」という文字を入れようという案が出てきました。

結果的には予算の関係で文字だけになってしまったのですが、ephemeralという言葉は、「はかない」という意味だそうです。「私は、はかなくない」というのを日本語に訳すのが難しく、一生懸命咲いている花、つまりは「いのちの花」という感じがしたのです。

鎌田先生は、よく「いのちの○○」という表現をされますが、花ってというのが、子どもたちの命のためになくてはならない物、といったシンボリックな意味を込めています。子どもたちが花を描くという行為が、病気の苦しみを和らげるために必要だし、またその行為がチョコ募金になり、必要な薬が届けられるという循環ですね。

子どもたちに「絵を描いて」とお願いすると、花の絵を描く子が多い。フォルムとして描きやすいというのもあるでしょうし、きれいなものという概念が潜在的にあるのでしょう。

生花=本当の花を子どもたちが手に取るところから「いのちの花」の絵が始まる。本当の花と造花では、全然違いますよね。みんな、うれしくなって、そんな気持ちが絵にこもっているわけです。

(僕が言う「本当の花」とは、その中に大切なものがあるという意味です。星の王子さまに出てくる、わがままなバラの花のようなイメージを持っていただければ幸いです。)

今年は、特にイラクにまつわる花をピックアップしています。

## ♥物語のあるチョコレート

偶然にも、描いてくれた4人が、全員女性で10代前半の思春期を迎えた世代です。クルド人、アラブ人、シリア難民、「イスラム国」から逃れてきたヤジディ教徒の少女ら4名が比較的安全といわれるクルド自治区で暮らす。戦争という重石の下で、生きている彼女たちの物語を引き出せたらいいなと思いました。

昨年は、絵を描いてくれた4人のうち2人が亡くなるというとても悲しい結末になってしまいましたが、今度の物語は、そうならないように願っています。

少女たちの物語は、HPで随時公開していきます。まるで、映画の(宣伝)のように紹介していく予定ですのでお楽しみください。

## ♥戦争とデモクラシー

9月に参院で可決された安保法制の議論では、「日本の安全と世界の平和を守る法案」(与党)、「戦争法案だ!」(野党)という論争で、世界の平和をどうするのが、ほとんど話題にならなかったような気がします。「イラク戦争のような戦争に自衛隊が参加することはない。」「イスラム国」との戦いに自衛隊を送ることはない」、と安倍総理は答弁で繰り返しました。しかし、イラク、シリアでは、多国籍軍の空爆がエスカレートして、日本がアメリカの要請や圧力を受け、経済効果だけを狙って、そういう現場に武力介入することは十分考えられることです。

国会前のデモで、「民主主義ってなんだ?」とコールする人たち。政府を変えるのではなく、政府を取り巻く文化と社会を変えていく運動が重要になってきます。

JIM-NETはチョコ募金で、戦争のリアルを伝えていって、戦争のない社会を作っていけるようなクリエイティブな文化を作っていきたい。JIM-NETに早くから参加してくださったカタログハウスや童話館などの会社とも一体になってそういう文化を作っ

## 【登場人物】



ナジラ (15歳) 描いた花: 水仙

クルド人。骨髄移植を受けないと白血病は治らないと宣告を受けた。クルド自治政府の予算で、インドで骨髄移植を受けることができた。しかし、一年後、再びインドに検査を受けに行かなければならなかった。



ローリン (14歳) 描いた花: 金木犀

シリアのカミシリで生まれる。ダマスカスで白血病の治療を受けていたが、内戦が激しくなり、国境を超えて、イラクのシリア人難民キャンプに収容された。父は、娘の治療費を稼ぐために、かき氷や、カブの煮込みの屋台を営むが…。



ドウア (13歳) 描いた花: あざみ

サマッラという町で生まれたアラブ人。イラク戦争後も宗派対立が続き、戦争の中で育った。父はアラビア語の教師。「イスラム国」との戦闘が激しくなる前にアルビルに逃れた。



ナブラス (14歳) 描いた花: ポインセチア

シンジャール出身のヤジディ教徒。2014年8月に、「イスラム国」の襲撃をうけ避難生活を送っている。同級生はイスラム国に連れ去られ行方不明になっている。父は、クルド軍に入り、故郷を奪還するために戦っている。



ていきたい。

ほかに、いくつかの面白い企業があって、ベネトンがかつてかなりラディカルに広告をやっていた時代がありました。NYの国連本部では、NPT（核兵器不拡散条約）再検討会議が5年ごとに開催されるのに合わせ、みんながデモに繰り出すのですが、2010年にはLUSH（英国生まれの自然派石鹸メーカー）の女性社員が、核兵器反対のプラカードを掲げてデモに参加していたんですね。僕は缶バッジをもらって、それからLUSHのファンになりました。最近、難民支援用の石鹸を寄付していただいています。「LUSHのお店が革命の基地にならなければいけない」、そういうコンセプトがあるそうです。

また、シャネルのデザイナー、カール・ラガーフェルドは、83歳のおじいさんなのにとてもラディカルです。パリのストリートでファッションショーを行い、ハンドマイクと「freedom！」

と書かれたプラカードをモデルに持たせるなど、メッセージ性の強いものを作っています。

そういったものが日本の商業文化の中で、受け入れられるかどうかということはあるでしょう。UNIQLOは、難民支援に積極的で、JIM-NETも古着をもらって難民キャンプに届けたことが何回かありますが、「戦争反対！」まで踏み込めるかどうか。そんな店舗にもJIM-NETのチョコチラシを置いてもらったら、これはすごい運動になると思います。

## JIM-NETのデモクラシーってなんだ？

といえば、みんなが、チョコ募金に参加できること。

特に、東京だけでなく地方の皆さんも手に取ってほしい。お店にチラシを置いてくださったり、大口で申し込まれて皆さんにチョコ募金を広めてくださる方、大募集です！

## 福島の実現と子どもたちの支援を忘れてはいけない

小玉直也（NPO法人アースウォーカーズ 代表）

東京電力福島第一原子力発電所の事故後、放射能の影響で生活が制限されてきた福島の子供たち。

アースウォーカーズはJIM-NETの支援を受けながら、福島の子供たちを支援してきました。これまで、未就学児を対象とした「福島の子供たち宮崎に来んねキャンプ」を毎年開催し、現在、第5回に向けての準備中です。また、小学生以下の子供たちを対象とした、「米沢日帰りリフレッシュプロジェクト」を毎月開催。そして、中高生を対象とした国際交流の企画も開催しています。

今年8月に開催した「2015 福島を伝え 再生可能エネルギーを学ぶ 福島・ドイツ高校生交流プロジェクト」の報告をします。このプロジェクトは2013年に続き、2回目です。2011年の震災当時に福島県に在住していた高校生8名が、書類選考などを経て選ばれ、約2週間の行程でドイツを訪問しました。

プロジェクトの目的として①福島県が進めている再生可能エネルギーをドイツで学ぶこと、②東日本大震災や原発事故で被災した福島を伝えること、③戦後70年の節目で日本とドイツの戦争と平和について学ぶこと、④ドイツの高校に短期留学して、同世代から教育やディスカッションについて学ぶこと、⑤チェルノブイリのように18歳までは保養に出したいという保護者の願いに応えること、などいくつかの視点で企画しました。

現地では、高校生たちがホームステイ先から登校して、学校で合流するスタイルで進めました。ドイツで最も再生可能エネルギーが進んでいるNRW（ノルトライン＝ヴェストファーレン）州での交流事業だったので、州の環境省を訪れエネルギーの方針や将来像などを学ぶ機会となりました。ドイツと福島の高校生がエネルギー問題についてディスカッションしたとき、ドイツの高校生一人ひとりが原子力発電所からの脱却と再生可能エネルギーへの転換について高い意識を持って語っていました。

平和についても、ドイツの高校生は70年前にナチスが侵略した国々の事を語る反面、福島の高校生は自国が侵略した歴史について語れない現状がありました。ボンの歴史博物館でドイツの高校生に急な無茶振りで語ってもらったら、自分たちの曾祖父の時

代に近隣諸国にどういう蛮行をしたのかを赤裸々に語り、福島の高校生は圧倒されました（写真）。

2国間の大きな違いとして、ドイツでは近現代史の失敗や教訓を将来に



どう活かしていくかという視点が、学校でも博物館でも連邦議会議事堂でも随所に見られました。一方、日本では戦争も原発事故も歴史の教訓や失敗を学ぶというスタンスではなく、臭いものにフタをするという風潮があり、国数英理社の科目は学ぶものの、それを社会でどう活かすかという学びが少ないと思いました。また、ディスカッションでも、自分の意見をしっかり主張するドイツの高校生と、あまり主張しない福島の高校生が対照的でした。

帰国後の池袋と福島での報告会では、高校生たちが思い思いにドイツで学んだ事を報告し、2週間で成長した姿が頼もしく思えました。参加した母親から「我が子は、震災後も再エネなどのニュースに関心のない子だったけど、今日の発表で『日本の高校生はもっと自己主張したほうがいい』と話し、これからのエネルギーや戦争のことについて自分の考えを話すようになって、すごく成長して帰ってきて驚きました」と感想が寄せられました。

そして、福島支援のためにイラクで集められた寄付を、今回JIM-NETを通じてアースウォーカーズにご支援いただきました。イラクと福島という放射能で苦しむ子どもたちのサポートを、多くの皆さんに支えられながら継続しています。

ぜひ、このような福島の子供たちへのサポートが継続できるよう、JIM-NETのチョコ募金やイベントに協力していただくと共に、アースウォーカーズの毎月一口500円～十口5,000円のマンスリーサポーターへの協力もよろしくお願いします。

★詳しくは<http://earthwalkers.jp> 特定非営利活動法人アースウォーカーズ 代表理事：小玉直也 090-8301-1123

メール [info@earthwalkers.jp](mailto:info@earthwalkers.jp) までご連絡ください。

## イラク・アルビルからの現地報告

榎本彰子（JIM-NET アルビル事務所駐在）

現在も、「イスラム国」を中心とする武装勢力と、イラク軍・クルド自治区治安部隊（パシュメルガ）等との攻防が続くイラク。今、イラクから多くの難民がヨーロッパを目指しています。

特に、シリア難民、パレスチナ難民、イラン系難民など、難民としてイラクにきたものの、治安が悪化し国内外からの支援も滞り、生活に困窮する状況の中、希望と渡航費用を握り国境を越えて移動しています。また、現在イラク国内避難民数は318万人に上ると言われており、イラク各地域から北部クルド自治区にも逃れてきて、キャンプ内外で避難生活を送っています。

【小児がん支援】クルド自治区・アルビルの病院でも国内避難民・難民のがん患者が増えています。避難してがんが見つかり治療に来ている子もいれば、治安悪化により病院に行けず治療のためにアルビルに来ている子もいます。

いずれにしても、大変な生活環境でがん闘っており、JIM-NETは通常の薬支援だけでなく、マスク・石鹸・アルコールジェルなどの感染対策キットや家庭用冷風機の提供など、感染症予防や生活環境改善支援を行っています。

【イラクのシリア難民支援】シリア難民キャンプの妊産婦さんや新生児への支援を行っています。妊産婦セミナーを実施し、「妊娠中の過ごし方」を記したパンフレットを配布して、安全なお産に臨めるようセミナーを実施しています。産後ケアとして、母乳が出ない母親や特殊なミルクが必要な赤ちゃんには、JIMNETが粉ミルクを配っています。また、特殊な病気は難民キャンプのクリニックでは対応しきれないため、糖尿病・心臓病・水頭症など

の赤ちゃんに対して、都市の病院へのアクセス支援と薬・医療品の支援を行っています。例えば、生後10ヶ月になるアバスタちゃんは糖尿病を患っており、母乳などに含まれる乳糖を含まない粉ミルクと家庭用血糖値測定キットを届けています。その他にも、妊産婦も含めた女性向けのワークショップを開催し、これまでに縫製・刺繍・手工芸・美容コースを行ってきました。

【イラク国内避難民】主にシンジャールやモスル周辺からドホークに逃れてきてキャンプに入りきらない国内避難民は、キャンプの外でテントを張るか、建設中の建物で避難生活を送っています。しかし、水道など給水システムが不十分なため、安全な水を手しにくい状況です。そのため、キャンプ外の避難民約400世帯に給水支援を行っています（写真）。

また、イスラム国に拘束されていた女性たちが、自力で逃れたりブローカーを介して解放されだしています。その女性たちを支援するため、健診や治療をサポートしています。今後は、特にこのような女性たちの精神ケアが必要だと言われています。さらに、こういった状況を国際人権NGO、「ヒューマンライツ・ナウ」を通じて国連人権理事会や市民社会に発信し、早期解決を訴えています。



## シリア、イラクはクラスター爆弾の被害国

### － JIM-NET はクラスター爆弾禁止を訴えます－

内海旬子（JIM-NET 海外事業担当）

JIM-NETは、NGOネットワーク「クラスター兵器連合（CMC）」の日本のメンバー、地雷廃絶日本キャンペーン（JCBL）に協力しています。クラスター爆弾は、親爆弾が子爆弾を大量にばらまき、広範囲を一気に攻撃する兵器です。この爆弾の問題は、使用時に人々が無差別に被害に遭うだけでなく、ばらまかれた子爆弾が不発弾となって紛争終了後にも大きな脅威となり続けることです。この不発弾はカラフルで珍しい形のおもちゃのように見えるので、それが多くの子どもたちの命、また手足を奪う要因になっています。クラスター爆弾の犠牲者の92%が民間人、その半数が18歳以下の子どもたちです。

戦争から守られるべき一般人が被害者のほとんどという兵器は禁止しなければならないと市民社会が声をあげて国際社会を動かし、クラスター爆弾の製造、使用、貯蔵、輸出入を禁止、不発弾を除去し、犠牲者を支援することを決めたクラスター爆弾禁止条約が2008年12月に成立しました。

この条約の第1回再検討会議が2015年9月、被害国のクロアチアで、締約国とオブザーバーとしてNGO等が参加して開かれ、JIM-NETは、JCBLの会議参加を資金的に援助しました。

この会議では、「いかなる理由があろうと、誰によるものであ

ろうと、クラスター爆弾の使用を非難する」という宣言が採択されましたが、英国、カナダ、オーストラリア、リトアニアは賛成しませんでした（日本は賛成）。これは「クラスター爆弾禁止」という条約の精神に反する行為です。英国は、サウジアラビア主導の合同軍がクラスター爆弾を使用しているイエメン攻撃を支持しているので、この採択を留保したのだと思います。条約締約国は、条約未加盟国のクラスター爆弾使用を非難すべき立場であるのに、英国は“忘れたふり”をしています。

JIM-NETが活動するイラクは、湾岸戦争、イラク戦争でクラスター爆弾が大量に使われ、世界で2番目に被害者が多い国です。またシリアは、現在クラスター爆弾が使われている世界5カ国のひとつです。JIM-NETのシリア内戦負傷者/障害者支援事業では、クラスター爆弾の爆発で全身大やけどを負った人や、手足をなくした人たちに会っています。

これ以上クラスター爆弾の犠牲者がでないように条約加盟を訴えていくことは、一見遠回りのようですが、クラスター爆弾をなくす確実な道となります。JIM-NETはこれからもこのキャンペーンに協力してまいります。



イラクの被害者・アブラ君